

神戸のお嬢さん

プロ。ピアニストの
夢に向かつて
自己を磨く努力家

谷村千恵さん

(国立鳴門教育大学大学院学校教育研究科・ピアノ専攻)

谷村千恵さんは人と争うことが嫌い、でも確
した努力家という今時めずらしい娘さんです。ア
ルバイトしながら徳島の大学院に通いピアノの研
鑽を積む彼女は、プロのピアニストは演奏技術だ
けでは通用しないと、会話や立ち振る舞い等のレ
ッスンも続けています。

神戸シーサイドで最終選考まで残った容姿と氣
品の持ち主。弊誌、甲南ジャーナルで、「神戸マ
イフエアレディー物語」のメンバーとしても、一
層の活躍を期待しています。



推薦者 山岡 雅章
甲南ジャーナル編集長



(六甲アイランドにて)
衣装協力: DearPrincess

神戸のお嬢さん

ナレーターを目指す、
爽やかなお嬢様

一ノ瀬陽子さん
(モデル)

一ノ瀬陽子さんは源氏物語をひもとくのが趣味だ、とのこと。こういう女性は、大きく成長する可能性を秘めています。心が豊かで、きめ細かいやさしさと自分に対するきびしさを持ち合わせています。

可能性に富んだ彼女と未来を語る時ほど、楽しい時間はありません。明るく前向き、そして爽やかな彼女は、モデルを務めながらテレビのナレーターを目指しています。是非政治家の秘書も目ざして欲しいですね。



(六甲アイランドにて)
衣装協力: DearPrincess



推薦者 浦上 忠文
神戸市議会議員(東灘)

「夏時間」 甲陽園での

阪急電車の甲陽線は周囲の喧騒をよそに緑の中を通り抜け……。その先には素晴らしい暮らしの環境があるのであるのだろうと、若い頃からの憧れでした。

阪神間の開発の歴史的背景には、別荘、住宅などを中心とするなかで、甲陽園には、温泉、音楽堂やキネマ撮影所などの開発で、特別な賑わいの時期がありました。

1927年撮影所閉鎖を契



‘95 ウィスコンシン州クレメンス教授の庭園にて

きむら たえこ <ライクリエーター>

グラフィックデザイナー、インテリアデザイナーの仕事を離れ、’76～’80口サンゼルス滞在。’80～’92芦屋大丸ライフコーディネーター。’92～’94ミネソタ大学ESL留学。’03梅花短期大学インテリア特別講座講師。’04大阪ガスインテリアスクール特別講師。

写真／木村多恵子

木村多恵子の 暮らしのエスプリ<8月>

— 親愛なるあなたに —

Dear Friends

爽やかな朝のテーブル



機に衰退し、その後急速に郊外住宅地として、山ろく斜面に瀟洒な住宅建設が進む一方、点在する老舗料理旅館などは、昔の面影を今に伝える由来だそうです。

高野多美子は私の双子の姉妹で、甲山の南山ろく・甲陽園に居を構えて、20年余り……。「今年の夏休みはいつにします?」とパソコンで彩色した美しいカードが届きます。私たちの恒例の夏の楽しみです。多忙をきわめている彼女ですが、

優しさに満ちた旋律につつまれて……



いつも最良の時間をつくってくれます。

張り出したルーフガーデンの植物も健やかで花が絶えま

せん。裏山の豊かな樹木の借景はこの上ない環境で、それ

がつけば母のようにお喋りしています。

彼方に見える教会への私たちの散歩コース

ぞの部屋から樂しめます。とりわけ私を虜にするのが、音楽のコレクションです。趣味の良い旋律がいつも彼女のまわりにあり、それは全てを包みする優しさに満ちています。

私たちは一緒にキッチンに立ち、母を偲んで、"精進さん"をこしらえます。母が話したきれいな関西ことばも大好きで、気

食後のカクテルはルーフガーデンに出て、眼下に広がる夜景と共に、ロサンゼルスで覚えたマルガリータを楽しみます。山間の冷氣を含んだ空気は心地よく、至福の時を共にします。私たちは、それぞれの道を歩むことで人生のあり方は変わりましたが、共通しているのは、家で過ごすことが大好きなことです。

トワイライトは静逸なひととき……



百濟

韓国レストラン

コクと爽快感が同居する
不思議うまスープの冷麺



冷麺は1260円。スタッフが「カムサハムニダ(ありがとうございます)」と
気さくに声をかけてくれるのも嬉しい

深い旨味を感じながら、舌の上で微妙な爽やかさを奏でるスープ。3時間かけて牛骨と肉、野菜をじっくり煮込んだベースに、酢をはじめとした調味料を合わせるだけではこの味は出ない。そこにある物をプラスするそうだが、その「秘伝」はあえてここに書かない。毎月韓国へ出かける研究熱心なママ、金輝子さん(金輝子ヒョンヒョク)が、韓国でこのヒントを得たそうだ。是非実際に食べて感じてもらいたい。

愉快なくらいの麺の歯ごたえ。3種の韓国産唐辛子を使用した自家製キムチやなます、スライスした肉を添え、豪快に夏らしく西瓜を飾る。美容にもオススメという冷麺は、暑い季節に一服の清涼剤と、力強いエネルギーを与えてくれる。

| | |
|--|----------|
| ■ 営業時間 | 11時半～22時 |
| ■ 水曜定休 | |
| ■ 神戸市中央区下山手通3-1-9 コスモビル1F 078-392-5458 | |



夏を制する 韓国料理編

夏

を制する

韓流ブームと言わされて久しいが、食の世界のコリアンパワーは夏の強い味方としてすっかりおなじみ。

進汗もまた爽快！
焼肉だけじゃない奥の深い韓国料理は、「グルメ」と呼ぶにふさわしい味覚の芸術だ。

樂音

三

やさしく、そして刺激的…。
子蛸といっぱい、野菜のコチージャン炒め

蝶のように舞い蜂のように刺すという訳ではないが、穏やかな甘さの後から鋭い辛さがやってくるソースは、オーナーとシェフが何度も試行錯誤して生まれた至宝とも言える味。自家製の新鮮なコチジヤンがベースで、蜂蜜が隠し味だとか。素材の自然な旨味を引き出し、後味も豊かだ。

明石直送の活蛸を丁寧に墨抜きし、ズッキーニやパプリカなどと絶妙な火の入りで炒める。蛸はジューシー、野菜はシャキシャキと食感も楽し。特注の皿に彩やかな紅色で絵を描くような盛りつけは、糸唐辛子のトッピングで炎が燃え立つような姿。

落ち着いたムードの店内で
舌鼓を打つ至福を、韓国琴や
ピアノの生演奏を友に…。

子蛸といっぱい野菜のヨチシャン炒めは924円
盛りつけて下に敷いてある冷麺の麺は、ソースとも好相性

盛りつけて下に敷いてある冷麺の麺は、ソースとも好相性

■ 営業時間 17時～翌朝4時
■ 無休
■ 神戸市中央区中山手通1-9
モザンビルB1F
■ 0781-3251-8181

2



能は、人が大きくなる」との道具

上田宜照さん（17歳） 上田彰敏さん（14歳） 上田顕崇さん（12歳）



右から長男・宜照さん、次男・彰敏さん、三男・顕崇さん



父・上田拓司さん

英国でシェイクスピアが、舞台上演してから約200年も前に、能楽は演じられてきた。世界で最も古い舞台芸術といわれる所以である。人類の無形遺産の傑作として、ユネスコ第1回世界無形遺産認定を受けている。

また、能の大成者・世阿弥が残した言葉は、今でも歴史、芸術、民俗学、社会学、人類学、言語学、文化など広い分野で引用されている。

シテ方観世流職分、上田照也さんの次男として生まれた拓司さんは、「長田能」「照の会」「上田兄弟会」などを催し、多くの演能を続ける一方、夙川の河畔に能舞台「瓦照苑」を開き、後進の指導にも力を注ぐ。国が定める重要無形文化財総合指定保持者にも認定されている。

拓司さんは、三男一女の父親である。長男・宜照さん（17歳）、次男・彰敏さん（14歳）、三男・顕崇さん（12歳）も将来の能楽の担い手として脚光をあびる。

「戦争を境に、日本独自の文化の多くが失われたような気がします。能は非日常的ですが、

音楽のコンサートのように、気軽にご覧いただっこことで、多くの方に身近に感じてもらえるよう普及に努めたい。日本がもつ美しい文化を多くの方に、伝えていきたい」。長男、宣照さんの言葉は、とても高校2年生とは思えない。次男・彰敏さん、三男・顯崇さんも能を一般的なものにしたいとの思いに変わりはない。

宣照さんは、今までこそ穏やかな口調でそう話すが、反抗期が三年以上もつづき、稽古に身が入らない、悶々とした日々を過ごした。小さい頃から、舞台や稽古に自分の時間が奪われてきただことで、それが反動となつて表れたのだ。

しかし、今では日本の伝統芸能を継承していくという使命感が、芸道に対する搖るぎのない気持ちに変わり、以前にも増して稽古に打ち込むようになつた。

「能というのは、若いときには分からぬ部分が多いです。上手くなりたいとか、有名になりたいとかという感情が先行します。しかし、能の醍醐味は、人間とはどういうものなのかということにあります。日頃の経験を積み重ねて、それが能に生きてきます。大きな深い人間を大人（たいじん）と言いますが、人が大きくなることの道具として、能を発見してほしい」。そこには、3人の子供を見守る父親の優しい目があつた。

拓司さんが24歳のとき、父・照也さんは58歳で急逝した。

今でも父の言葉を心にとめている。

「父は目標ではない。

踏み台にしなさい」と。

3人の愛弟子に稽古をつけるとき、その言葉を思い起こす。

照（てらす）の会

公演予定

平成17年11月18日（金）

☎ 0798-73-8856



初めて能面を付けて演能を行う宣照さん



自宅の2階にある「瓦照苑」での稽古風景

■和紙ちぎり絵「ちいさな美術館」

田中悠子さんのアトリエ北野町に開館

JR三ノ宮駅から北野町へ。
六甲荘の西山側に、和紙ち

ぎり絵作家の田中悠子さんが、
7月11日、待望のアトリエ
兼ギャラリー「和紙ちぎり絵・
ちいさな美術館」をオープン
させた。

階段をのぼって室内に入ると、田中さんらしい明るく透明感のある薔薇の作品群が眼をひく。白い薔薇の気品と匂いに、「田中悠子の世界」へ誘われる。北野工房のまち（北野小学校跡）の二階に神戸和紙工房があり、そこで漉いた和紙を使って、一枚一枚薄くはがして彩りを創る田中さん。館内のやさしさ、心癒される空間と作品たち。また、本や絵はがきなどに新しく薔薇紅茶も登場して楽しい。「この空間でお稽古もしたいですし、観光客の方々にもトライしてもらったりすることも考えています。」北野町からのエレガントな文化発信は、ちいさけれどパワフルだ。



オープニングに田中悠子さんと講師のみなさん



白い薔薇の作品の前の田中悠子さん



オープニングパーティー 田中さんを囲んで



開館時間 10 時～17 時

月曜休館

入場無料 作品の販売も可

和紙ちぎり絵
ういさな美術館

田中悠子アトリエ Atelier Yoko Tanaka

北野

〒650-0002 神戸市中央区北野町2-1-10
TEL 078-242-1931 FAX 078-242-1932
10:00-17:00 (定休日=月曜日)



阪神・淡路大震災10周年記念事業公演
5時46分…決して忘れてはならない、あの日を…

愛と夢
パートVII
永遠のタカラジエンヌ

真帆志ぶき
姫由美子
郷ちぐさ
但馬久美
明日香都
桐さと実
蛇一晴
近衛真理
風さやか
大原ますみ
景千舟
寿ひづる
草笛雅子
檀ひとみ



2005年 7月10日
於／神戸文化ホール大ホール

2005年の愛と夢「永遠のタカラジエンヌ」パートVIIが、阪神・淡路大震災10周年の記念事業公演として、神戸文化ホール大ホールにて7月10日（日）午後4時開演で開催された。

第1部は、大震災の鎮魂の祈りと感謝と活躍を誓うタカラジエンヌの舞台が、第2部は翔け宝塚100

周年をめざして懐かしい宝塚のヒットパレードが構成され、感動のはなやかな舞台がくり上げられた。

往年のトップスター真帆志ぶきさんをはじめとする14名が、さすがと思わせる歌と踊りと演技を披露。風さやかさんの構成・演出。振付と熱演にも圧倒された。



元カラージェンヌの皆様を
ゲストに招いてのトーク番組

風さやか
愛と夢♥永遠のタカラジエンヌ

毎週日曜 PM11:00～PM11:30 AM KOBE 558にて好評ON-AIR

提供／おしゃれは足元から…神戸・三宮 **靴のモリタ** 078-391-9283

当日のゲスト泉アツノさんもかけつけて一段とはなやかなタカラジエンヌたち

■チャレンジ神戸 この企業に注目④

医療、福祉のまち神戸で、 日常生活の元気をつくる

株式会社ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター



国にサービスを

健三さん。



株式会社ニチイ学館 マーケティング本部の伊藤健三さん

提供している。その中心的な活動拠点となるニチイ学館神戸ポートアイランドセンターがこのほど完成し来春オープンをめざしている。

このセンターは、

ポートアイランドから 医療と福祉の情報発信

医療・福祉に関わる研修機関、医療・福祉機器やサービスに関する新規開発情報発信基地として数多くの機能をもつ。

ニチイ学館は、もともと医療事務にかかる業務を請け負う会社として昭和43年に創業したが、平成8年の介護保険制度導入時に、それまで培ってきたノウハウを活かして在宅介護事業に参入。現在は創業からの「医療関連事業」と「ヘルスケア事業」それに「教育事業」が社業の三本柱となっている。なかでもヘルスケア事業には、ケアマネジメント、住宅改修、ホームヘルプサービスなど幅広い業務が含まれており、デイサービス、グループホームなどで全

神戸に拠点を構えることになつたきっかけは、神戸市が進めつつある「医療産業都市構想」である。神戸市は医療・福祉をキーワードに、ポートアイランド第2期への企業誘致を行つてきた。

「我々としても、様々な課題を抱えています。その一つとして、「時代の変化に対応することが挙げられる。これを解決するには、これまで三本柱としてやつてきたことを一本化する必要があるのです。」とマーケティング本部の伊藤



既存の業務を見直し、これから医療・福祉のニーズに応えていくための新たな業務のあり方を模索していく場として、医療産業都市をめざす神戸の地が最適だと考えた。ここでは、これまでの医療制度の中だけのビジネスから、在宅医療を含めた、幅広い医療関連事業への発展をめざし、創造活動を視野に入れていた



国際会議にも対応出来る B 棟・研修会議・情報開発センター

行ることがありますから。」と伊藤さん。在宅での生活は、その後の医療とも深い関わり合いをもつ。ニチイ学館では「介護や医療のなかに、生活の楽しみがある」という考えに基づき事業を推進している。

この考えを推し進めることのための施設として、センターは理想的な環境にあると言える。神戸空港と連動して、国際化の一翼を担う

来年 2 月 16 日には神戸空港が開港し、人・モノ・情報の交流がいつそう進むことが予想される。この国際的な環境を生かして情報を発信していくことに、大きな意味がある。周辺には、世界からも注目を浴びる先端医療センターなど医療に関わる施設がそろう。このエリアでは、産・官・学が連携を図るクラスターの生成が加速する。そうなれば、神戸空港を活用し

て国内外を問わず多くの人々が訪れる。これら多数の人々にこのセンターを利用してもらおうというのだ。自社のためだけにつくった施設ではなく、多くの人々に利用してもらうことで、僅かながらも社会還元を行っていきたいとニチイ学館は考える。

「これからは企業一社で何かを動かす時代ではありません。空港を含め地域や関連施設との連携によって、大きく活動していくなければならない時代です。そのための情報発信基地としてこのセンターが活用されれば言うことはないですね。神戸空港と連動して、国際化の一翼を担えると考えています。」

4 棟構成で多様化する福祉のニーズに対応

センターは、異なる機能を持つ四つの棟で構成されている。

A 棟は、展示・体験のための施設。福祉用具やリハビリテーション機器の試用体験をはじめ、医療・福祉関連のイ

イベントなどもここで行われる。

実社会で活用されている医療機器を実際に見たりさわったりしてもらうことで、来館者に医療関連事業の歴史と現状を理解してもらう。

B 棟は研修会議・情報開発

センター。ここは座学のためのスペースになつており、会議やコンピュータ研修などどちらず、医療や福祉をテーマにした大規模な国際会議や企業研修にも対応できる。

また、C 棟は研修受講者や会議参加者が利用できる宿泊センターになつており、セミナーになつており、149人の収容が可能。この施設の特徴は、全室に介護用ベッドを配置し、研修の一環として宿泊者がこれを実体験することができる。1階をすべて車椅子対応の部屋とし、各種の設備を完備していることだ。

そして、D 棟の福祉用具評価センターは、福祉用具の安全性や耐久性等の「品質試験」及びその「データ分析」などを行う研究施設として稼働予定。4 棟は現時点ではほぼ完成し

ており、このセンターは、ニチイ学館が全国に向けて情報発信等を行う活動拠点となる。

生活の中にある「福祉」、元気をつくるニチイ

センター自体のグランドオープニングは来春を予定しているが、それまでも、完成した施設を利用したイベントを随時開催していく。今秋には、

今年6月に東京で開催されたMIPRO主催の「キッズフェア」をセンターで開催する。これは身体に障害を持つ子供たちのためのイベントで、東京で開催されたときには、二日間で延べ8500人が参加した。このイベントは、福祉用具の展示・体験コーナー、セミナーなど様々な趣向が凝らされた内容になつていて、東京では多くの人々が参加し

大盛況のうちに幕を閉じたが、ニチイ学館では、神戸での開催にも大きな期待を寄せていいることだ。

「我々のモットーは、『医療・福祉』を、日常生活の中で、いつでも、どこでも、誰でも

が、生活の一部として普通に関わっていくものと理解し、その理解に基づいて、明るく楽しい日常生活をつくりだすことになります。このイベントを通じて、多くの方に、生きる喜びや楽しさを体感していただきたい。ニチイ学館は生活を創造していく企業です。『元気をつくるニチイ学館』であり続けたいと思っています。」

震災後の1998年に神戸市が提唱してきた神戸医療産業都市構想。ニチイ学館はその一翼の担い手として期待されている。



149名収容できる宿泊センター
1階は車いすにも対応。